

|         |      |          |             |
|---------|------|----------|-------------|
| 学習・発達論  |      | 講義       | 非常勤講師 新原 将義 |
| 科目カテゴリー | 教職科目 | 科目ナンバリング | 25200202    |

### 1. 授業のねらい・概要

「人格の発達状態に適した学習」「人格の発達を育む学習」の必要性を説き、発達及び学習と教育心理学について述べる。学校には健常児及び障害児、両者のボーダーライン部分に位置する子ども、現実には健康と病気の間を揺れ動く子どもが存在する。彼らが望ましい発達を遂げていくために必要かつ適切な揺さぶりともなる学習と指導について概説する。

本講義の受講者は、講義内容をもとに研鑽を積んで欲しい。さすれば、「健常児・障害児」における心身の発達や、ある内外の圧力に適した学習と指導の仕方を習得することができる。発達を促し育む幾つかの揺さぶりのかけ方を自己のものとするこもできよう。

### 2. 授業の進め方

講義及び演習。質疑応答の時間を設ける。

### 3. 授業計画

|  |  |
|--|--|
| <p>1. 本講義の意義と目的：①教育心理学と学習・発達論について、②本講義のねらい</p> <p>2. 発達の概念、発達の原理</p> <p>3. 発達段階：乳児期・幼児期・児童期・青年期・成人期・老年期</p> <p>4. 心理面の発達①：精神的自立性の発達</p> <p>5. 心理面の発達②：個人的価値体系の発達</p> <p>6. 心理面の発達③：認知的発達</p> <p>7. 学習理論，レディネス</p> <p>8. 動機づけ，教授-学習法</p> <p>9. 評価</p> <p>10. 研究方法</p> <p>11. 指導上の留意点・健常児：①健常児とは、②乳児期・幼児期における指導上の留意点</p> | <p>12. 指導上の留意点・健常児：③児童期・青年期における指導上の留意点</p> <p>13. 指導上の留意点・障害児：①障害児と教育、②視覚障害児・聴覚障害児・知的障害児・肢体不自由児・言語障害児・病弱児・自閉症スペクトラム障害児・情緒障害児</p> <p>14. 指導上の留意点・障害児：学習障害児・注意欠陥／多動性障害児・重複障害児</p> <p>15. 指導における留意点・“健常児-障害児”：健常と障害の境界に位置する子ども、健常と障害の間を揺れ動く子ども</p> <p>※15回目の授業時にまとめを行う。</p> |
|--|--|

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

シラバスや参考文献をもとに今回の講義内容を理解しようとの思いを抱いて講義に臨んで欲しい。各講義における受講準備として、予習を、1時間程度行って欲しい。各講義の復習を必要に応じて行って欲しい。この復習に最低30分程度は時間をかけて欲しい。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

上記の各回における講義のまとめ時とその次の回における導入の時間に、学習してきた基礎的かつ基本的な知見の理解度をチェックする。定期試験の終了時に試験の解答を説明する。

### 6. 授業における学修の到達目標

授業の各回において取りあげる基礎的かつ基本的知見を理解し、自己のものとする。

### 7. 成績評価の方法・基準

定期テストの結果（100%）を、評価の対象とする。

#### **8. テキスト・参考文献**

授業で使用するテキストについては、授業内で購入の指示を行う。また参考文献については、都度レジュメに記載を行う。

#### **9. 受講上の留意事項**

4日以上の欠席者は定期試験の資格を失う。

#### **10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無**

該当しない。

#### **11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。